

## JA新はこだて花卉生産出荷組合におじゃましました

ここ道南地域は、冬が温暖で夏が冷涼な気候を生かし、各地域で多品目にわたり特色のある花づくりが行われている道内有数の花の産地です。

### ■JA新はこだて花卉生産出荷組合誕生

JA新はこだて花卉生産出荷組合は、平成14年2月に渡島・桧山両管内の13農協が合併し、「新函館農業協同組合」が発足したことにより、各地区の花き生産団体が1年間の合併協議を経て平成15年に誕生しました。

(ホームページはこちら! → <http://www.ja-shinhakodate.jp/flower/>)

当組合(組合員数104戸)は、北斗、七飯、桧山南部、森、落部の5支部に、カーネーション、トルコギキョウ、アルストロメリア、かすみ草、りんどう、ゆり、デルフィニューム、アスター、われもこうの9品目別部会と青年部で構成されており、各支部・各品目で特色のある花づくりが展開されています。

今回は、その中で、七飯支部と桧山南部支部におじゃましました。

### ■JA新はこだて花卉生産出荷組合七飯支部の紹介

七飯支部は、昭和60年の函館市花卉卸売市場の開設を機に6名の生産者が「七飯町花卉生産出荷組合」を設立したのがはじまりで、その後、「市場と消費者に支持される魅力ある産地を目指す」(花卉集出荷施設にも大きく掲げられていました)などのスローガンのもと、栽培技術の研鑽に取り組みながら、組織の拡充を図り、現在は、組合員52戸、販売額約11.5億円と道内有数の花の産地となっています。

### ■主力はカーネーション

七飯町では、カーネーション、アルストロメリア、アスター、トルコギキョウなどを生産しています。その中でも、カーネーションは、昭和63年の完全共選をきっかけに栽培面積が拡大し、今では七飯支部の販売額の8割以上を占める主力品目として、道内はもとより関東・関西方面の市場に出荷されており、スプレー、スタンダード併せて140種以上が栽培されているなど、生産量・品質ともに道内一のカーネーションの産地として、高い評価を得ています。

カーネーションの出荷は、6月初旬から12月中旬まで行われており、取材でおじゃました10月初旬は、最盛期(8~9月)に比べると出荷量が減ってきているとのことでしたが、それでも、色とりどりたくさんの品種のカーネーションが選花され、市場に出荷されていました。



STカーネーションの共選風景

### ■地元にもPR

七飯支部では、地産地消の一環として、日本でのカーネーション生産100周年を記念して、2009年から敬老の日に町内在住の100歳以上のお年寄りにカーネーションの花束をプレゼントしたり、花の展示なども積極的に行うなど、地元へのPRも行っています。

### ■取材を終えて

取材の中でJAの花弁担当者から、近年、花の消費が減っているのに、「特別な日ではなくてもいいので、普段から1輪でも2輪でもいいから花を買っていただけたら」との話がありました。

花の輸入の増加や消費の低迷など、花を取り巻く環境は厳しくなっていますが、皆様に喜ばれる魅力ある素敵な花を届けるために、日々、生産者は努力していますので、ぜひ、JA新はこだて花卉生産出荷組合の花を買ってみませんか？



市場への出荷を待つカーネーション

(平成23年10月取材 渡島総合振興局農務課)